

事例 7 千葉県富里市 ～高等学校への期日前投票所の設置～

- 市の面積：53.9km²
- 市の人口：49,636人（H27年国勢調査）
- 選挙人名簿登録者数：41,335人（H28参（選挙時登録））
- 投票所数：11箇所
- 期日前投票所数：3箇所（公共施設、高等学校）
- 直近選挙の投票率：46.91%（H28参）44.43%（H27市議）45.47%（H26衆）
- 18、19歳の投票率：18歳：47.20%、19歳：36.57%（H28参）

取組に至る経緯

選挙権年齢の引下げに先立ち、若い世代の選挙に対する意識を把握し、選挙啓発の取組の参考とするため、平成27年6月に県立富里高校の全生徒を対象にアンケートを実施した。本アンケートは、選挙管理委員会事務局が独自に行ったものではなく、市の企画部門が実施する市民意識調査に相乗りして実施した。

アンケート調査の結果、「選挙権年齢の引下げを知らない」との回答が約半数を占めていたことに加え、富里高校の生徒のうち市内在住者が、全生徒の約4割と相当数にのぼることが明らかとなった。そのため、より一層の生徒に対する意識啓発や投票機会の拡充が必要であると考え、市選挙管理委員会からの提案により、市内で唯一の高校である富里高校に期日前投票所を設置することとした。これまで期日前投票所は2箇所であったが、当高校が加わったことで3箇所となった。

高校側とも、設置場所や時間帯などについて十分に打合せを重ねた上で、当日に臨んだ。

【アンケート結果】

- 対象：富里高校1学年から3学年までの全生徒 回収数705人
- 実施時期：平成27年6月
- 調査結果：
①選挙権年齢の引き下げについて知っているか。
知っている49.1%、知らない46.9%、無回答4.0%
②投票に行きますか？
行く30.9%、行かない22.0%、わからない43.1%、無回答4.0%
※投票へ行かない主な理由：どの政党にも議員にも期待しない、政治に関心がない等

取組内容

【高校への期日前投票所の設置】

○日時：6月28日（火） 12時30分～16時30分まで

○場所：富里高校1階・第2応接室

○対象者：投票時に有権者となる生徒約 30 名

なお、期日前投票日を、6月28日とした理由は、次のとおりである。

- ・期日前投票期間は約2週間あるが、当高校での有権者数は30名程度と想定されるため、適切な周知を行うことにより、投票日は1日かつ午後のみで十分と考えた。
- ・生徒が昼休みと放課後に投票できるよう、上記時間帯の4時間とした。（昼休みは12時40分から13時20分まで。また放課後は15時45分以降）

【配置人数及び投票所の様子】

- ・期日前投票所管理者 1名
- ・期日前投票立会人 2名
- ・事務従事者 5名（会場案内・宣誓書記載案内・受付・投票用紙交付）
- ・駐車場整理（警備員） 1名



【事業費】

| | |
|------------------------|----------|
| 報酬（管理者・立会人 各1名） | 20,600円 |
| ※上記他立会人に職員1名配置（報酬発生なし） | |
| 費用弁償（報酬に同じ） | 2,000円 |
| 委託料（人材派遣2名・警備員1名） | 31,069円 |
| 期日前投票管理システム追加ライセンス | 270,000円 |
| 合計 | 323,669円 |

【市民への周知方法】

市広報紙やホームページ、投票所入場券、選挙運動用ポスター掲示場（85箇所）、横断幕（3箇所）、立看板（1箇所）に期日前投票所の設置期間等を掲載した。

また、以下のとおり、富里高校の生徒に対しても、本校における期日前投票の概要や不在者投票などについて周知を図った。

- H27.6月 富里高校全校生徒を対象にアンケート調査を実施
- H27.12月 富里高校全校生徒に啓発パンフレットを配布
- H28.4月 富里高校全校生徒を対象に選挙啓発セミナー（模擬投票等）を実施
- H28.4月 富里高校全校生徒を対象にアンケート調査を実施
- H28.6月 参議院議員通常選挙における新有権者（18・19歳）に啓発文書送付

取組を進める上で考慮した点

生徒が通常通り登校している環境下での期日前投票所の設置であったため、一般の有権者が長時間校内に留まらないよう、期日前投票所の設置期間は1日のみ为数時間とした。また、設置場所についても、入口になるべく近い位置に設け、動線を分かりやすくした。

一般の有権者が高校内に入ることから、警備員1名を配置することに加え、時間を決めて警察官による見回りを行った。

なお、二重投票が発生しないよう、名簿対照にあたっては、市役所との電話連絡による確認を密にした。

【投票所の場所（富里高校校舎図（1階））】



取組の実績・効果

高校での投票者数は、以下のとおり。

| 区分 | 高校全体の投票者数 | うち18歳の投票者数 | うち一般有権者 | その他 |
|----|-----------|------------|--------------|---------------|
| 人数 | 32人 | 11人 | 19人 | 2人 |
| 備考 | | すべて富里高校の生徒 | 先生など学校関係者含まず | 6/28時点で17歳の生徒 |

今回の高校への期日前投票の設置について、最も対応に追われたのはマスコミからの問合せであったが、同時に今回の取組を対外的に広くPRができたともいえる。首都圏地域において、高校での期日前投票を行っている団体は当市のみであったため、首都圏にあるマスコミ（本社含む）の取材申込が集中

した。テレビ局 7 社、新聞社 9 社が取材に訪れ、地元放送・地方紙のみならず、全国放送ネット・全国紙に放映・掲載された。

また、投票した高校生の感想として、新聞記事では、以下のようなコメントが掲載された。

- 投票日は大学見学に行く予定があったので、本日投票できてよかった。
- 学校に投票所があると便利。ちゃんと投票しようと思える。
- とても緊張しました。前日までインターネットや新聞でたくさん調べて、自分の思いに近いことを訴えている人に投票しました。
- 難しいけどきちんと調べて投票しなければという意識にさせられた。

取組がうまくいった要因

高校は主権者教育の取組に積極的であり、市選挙管理委員会の取組への理解が、今回の実施に至った大きな要因の一つである。

また、富里市では、平成 23 年から高校生が投票事務に従事しており、投票に関する意識付けの取組がなされてきた背景も考えられる。この取組は、高校生の職場体験の延長として位置付けており、具体的には、投票所での案内係や用紙交付などの業務を担当してもらった。

午前中に 2 名、午後 2 名と 1 日あたり 4 名従事してきた実績がある。

今後の課題

期日前投票所は 3 箇所設置されたが、当高校のみオンライン化されていない。今回の期日前投票では、一般の有権者 19 人について、電話でやりとりを行ったが、特にトラブルなく待ち時間も発生しなかった。

オンライン化をしていない理由としては、主として費用負担（月額の利用料負担）の問題があげられる。また、高校でのオンライン化については、高校が県の施設であるため、市の施設と違ってスムーズに進めることが難しかったことが挙げられる。

今後は、投票立会人等への新有権者の起用も検討していきたい。